

DENTAL TRIBUNE

The World's Dental Newspaper・Japan Edition

PUBLISHED IN JAPAN

jp.dental-tribune.com

2018 Vol.2 No.2



オピニオンリーダーに聞く

設立から115年。超高齢社会における日本歯科医師会の新たな課題と役割を堀憲郎会長に聞く。

▶ Page 3



企業トップに聞く

世界最大級の歯科用材料・機器メーカーであるデンツプライシロナ。その強みを活かした戦略を北本優子社長に聞く。

▶ Page 4



オピニオンリーダーに聞く

今や日本最大規模となった日本顎咬合学会。その活動内容や今年の年次大会の焦点を上田秀朗理事長が語る。

▶ Page 6



インプラントの補綴材料

AOの第33回年次総会にて、生体に性質が近いノンメタル補綴材料のJUVORAデンタルディスクが注目を浴びた。

▶ Page 10



私大研究ブランディング事業

昭和大学の推進する私立大学研究ブランディング事業。歯科医療と口腔保健、全身との健康のつながりの解明に期待。

▶ Page 11

特集 GLOBAL STANDARD DENTISTRY

世界は今、どこへ向かうのか？

グローバル化が進むことによって、歯科医療の情報格差はもはや過去のものとなった。世界は、今後、どこに向かうのか？ 各国の最前線レポートをお送りする。



オランダ発

先端医療と予防が共存する国オランダ

マーストリヒト大学頭蓋顎顔面外科学講座
歯科・口腔外科医(日本口腔外科学会認定医)

小山慶介

3D解析による診査、診断、術前シミュレーションなど、オランダでもデジタルデンティストリーの応用が進む。同時に予防医学とのバランス感覚も絶妙だ。



小山慶介

進む口腔外科領域での3D解析と応用

医療の進歩とともに、疾患への解釈や診査診断方法、治療方法はこれまでに大きく変化を遂げてきた。それは口腔外科領域においても同様である。

まだ日進月歩の医療だが、その反面で疾患に対する治療の根本的な概念や術式が、かつてのように大きく変わるという

ことは徐々に少なくなっていくと予想している。細かなマイナーチェンジはあっても、誰もが思いつかなかったような新たな術式が生まれるということは減っていくだろう(ゼロにはならないが)。

それよりも、今後、医療の進歩に重要となってくる要素は、診査診断機器やプランニングのデバイス、実際の臨床現場で使用されるツールやマテリアルの発展だろう。

オランダに渡って1年半、実際に見聞きしてきた情報からも、その様子が強うかがえる。私がお世話になっているマーストリヒト大学病院の講座でも、3Dデータの応用(解析)がトレンドの柱だ。中でもPatient Specific Implants (PSIs)の頭蓋骨欠損症例に対する応用

や、個々の患者さんの3Dデータから、Additive Manufacturing(付加製造)によって作成された、下顎骨再建プレートの利用などが積極的に行われている(頭蓋骨欠損症例では、生体活性を改善するための生体材料の研究にも関心が集まっている)。

また、頭蓋骨欠損症例や顔面非対称症例、重度の中顔面外傷症例などにおける、健側の3次元構造を患側にミラーリングして行うシミュレーションや、顎変形症におけるバーチャルプランニング、腭骨再建時のカッティングガイドと、どれをとっても3D解析が重要な役割を担っている。従って、臨床に3Dを応用するための3Dコンピュータや3Dプリンター、使用されるマテリアルの研究・改良、そうして出来上がったカスタムメイドのプレートやガイドの臨床応用が、トレンドでありフロントラインだ。

予防が歯科医療の常識として根付く国

日本人としての立場から見ると、オランダの予防歯科事情は、今まさに全盛期を迎えている日本に比べると、いささか盛り上がり方に欠けるようだ。これ

は、古くからすでに予防という分野に強い関心が向けられていたからかもしれない。

というのも、1950年代から1960年代にはオランダで有名な大規模研究(Tiel・Culemborgの研究)が行われた。この研究で彼らは、フッ化物の使用に焦点を当て、飲料水から虫歯の発生率／罹患率を評価した。その後、歯科分野では、予防とフッ化物の使用に多くの注意が払われてきた。オランダの飲料水には、法的問題のために全国的にフッ化物を添加するには至らなかったようだが、彼らは一般的に歯磨き粉にフッ化物を使用するようになった。また、クリニックではフッ素塗布が行われるようになった。

次に、歯科衛生士はオランダでも非常に一般的で、1次予防(小児歯科、歯磨指導)と、2次

予防(歯周治療)で重要な役割を担っている。しかし、歯科衛生士の歴史は日本の方が古いことは意外な点かもしれない。日本では1948年に歯科衛生士法が制定され本格的な教育が開始されているのに対し、オランダで歯科衛生士の教育が始まったのは今からちょうど50年前の1968年のことだった。

また、医療費の面からも予防への意識の高さを感じる。というのもオランダでは、18歳未満の歯科治療はすべて保険でカバーされており、6か月ごとの定期健診代もそれに含まれているのだ。カリエスリスクの高い患者さんには、シーラントやフッ素塗布を積極的に行うようだが、それらもすべて無料だ。国の政策レベルでの予防歯科に対する関心の高さが見て取れる。



マーストリヒト大学病院の外観

DENTAL TRIBUNE 日本版
定期購読のお申込み

QRコードから
スマートフォンにも
対応!



URLから
右記URLを入力して
アクセス!

<https://goo.gl/kSR29r>

デンタルトリビューン日本版を、毎月指定のご住所で定期発送いたします。ぜひお申し込みください。

特集 GLOBAL STANDARD DENTISTRY



カンボジア発

著しい経済発展の陰で、
歯科医療現場の道は未だ険しいフリーランス口腔外科医
岩田雅裕

ポル・ポト政権の大虐殺により、一時28名にまで歯科医師数が激減したカンボジア。経済復興は目覚ましいが、医療現場の課題は山積している。

今も残る深い爪痕
医療・教育現場の再建へ

高層ビルの建設ラッシュ、道路には日本以上に高級車が走行する。ここはカンボジアの首都プノンペン。急速に経済発

展するカンボジアは、一方で街から少し離れれば、私が医療支援活動を始めた19年前とまったく変わらない貧困が続いている。

カンボジアは東南アジアに



口腔外科手術の様子

位置する人口約1,600万人、日本のほぼ半分の面積の王国だ。1970年から始まった内戦による国土の疲弊、そして1975年からのポル・ポト派による独裁政治、クメール・ルージュ。知識層である医師、教師らの大半は虐殺された。約30年間の内戦で、私が初めて訪れたときは、世界最貧困国、医療レベル最低国だった。

現在では経済発展は著しいものの、一度崩壊した医療、教育現場はまだまだ遅れている。確かに、街の中心部では免許を持った医師がかなり増えた。しかし、病院は今でも患者さんや家族で溢れかえっている。お金がないために治療を受けられない人が多いのも変わらない。

医療保険制度がないカンボジアでは、CT撮影も自費だ。加えて、1カ月の給与ほどする高額な撮影費では、ほとんどの患者さんは撮影を拒否してしまう。画質の悪い単純X線写真と超音波検査のみの診断で、術前の診断が困難なことも多々あった。ほとんど経験と勘に頼る術前診断、手術を余儀

なくされる。やはり医療現場の貧しさは相変わらずだ。

ポル・ポト政権の大虐殺により800名ほどいた歯科医師は、カンボジア全土で28名に激減した。このように崩壊した歯科医療も現在では、歯科大学も国立1校、私立3校(軍大学除く)、歯科医師数約700名にまで回復している。カンボジアの歯科大学は7年制で、歯科医師国家試験も3年前から開始された。附属クリニック(大学附属病院はない)での患者診察実習は5年生から。しかし、大学教育のカリキュラムはまだまだ確立されていないのが実態だ。カンボジアのような医療後進国では、大部分の歯学生は一般歯科医を目指すため、医科と同様、専門医は非常に少ない。

そしてまだまだ無免許の歯科医師が多く開業しており、地方では当たり前、プノンペンでも中心部から少し離れれば見受けられる。居住空間と混然一体とした中にチェアー1台、デンタル撮影装置、そしてオープントースター——滅菌器の代わりだ……。



岩田雅裕

カンボジアの歯科治療内容は、主にう蝕に対して根管治療、充填治療、補綴治療、拔牙で、予防的な考えはほとんどない。プノンペンやシェムリアップなどの都市部では、インプラント治療や矯正治療も行われている。そして多くのカンボジア人歯科医師の興味は、やはり収入増につながるインプラント治療、矯正治療だ。インプラント治療1,200米ドル、矯正治療3,000米ドル。カンボジアでは破格の治療費のため、まだまだ一部の患者さんに対してではあるが……。

このように、カンボジアの歯科医療はまだまだ発展途上、これからが楽しみである。

歯から
元気で長生きな
世界をつくりたい

メディカルネットは、
より良い歯科医療環境の実現を目指し
インターネットを活用した
サービスの提供にとどまらず、
歯科医療を取り巻く全ての需要に対して
課題解決を行っています。



株式会社 メディカルネット

本社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-34-14 宝ビル 3F
大阪支社 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場 2-10-12 砂糖会館ビル 2F
福岡支社 〒813-0032 福岡県福岡市東区土井 3-16-15

オピニオンリーダーに聞く

超高齢社会の中で、 歯科医が果たす新たな役割

我が国の歯科医師社会を代表する唯一の総合団体として、1903年11月に設立され、今年で115年を迎える日本歯科医師会。その活動は、乳幼児歯科健診や学校歯科健診、母子保健を通して歯科保健に貢献するほか、「8020運動」でも大きな成果をあげてきました。2016年末現在、日本の歯科医師数10万4,533人のうち、約6万5,000人が加入する同会は、今後、どのような役割を担い、活動を行っていくのでしょうか。そこで堀憲郎会長に、「歯科医療の過去、現在、未来」について、お話を伺いました。

日本歯科医師会 その存在意義と役割

日本歯科医師会定款の第3条に本会の目的として、「都道府県歯科医師会及び郡市区歯科医師会との連携のもと、歯科医学・歯科医療に携わる歯科医師を代表する公益団体として、医道の高揚、国民歯科医療の確立、公衆衛生・歯科保健の啓発、並びに歯科医学の進歩発達を図り、もって国民の健康と福祉を増進すること」とあり、これが本会の存在意義といえるでしょう。

具体的には、歯科医師を代表とする団体として歯科医療政策の提言をすること。そのための歯科界結束に向けてリーダーシップをとる役割もあります。また歯科医師には「個人として診療室で果たす責任」のほかに、「組織の一員として果たす公的な責任」があると私は考えています。

歯科医師の憲法ともいえる歯科医師法第1条には「歯科医師は、歯科医療及び保健指導を掌ることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保する」として、「公衆衛生」「公的な責任」が明確に謳われています。歯科医師会は会員が法で求められているこれらの責任を果たすために、学校健診、乳幼児健診等の場を確保し、また生涯研修の仕組みを提供するなどの支援を行う仕組み作りを行ってきました。歯科医師会という組織がなければ、歯科医師に求められている責任を果たせないと理解しており、このことも大きな存在意義と思っています。

「伸び続ける医療費をどうするか」という議論が交わされる中、歯科だけは2002年頃から10年近く歯科医療費を減らし

堀 憲 郎

堀歯科医院 院長
公益社団法人日本歯科医師会 会長



(ほり・けんろう) 1979年、日本歯科大学卒業。1991年から新潟県歯科医師会の社会保険委員を務めたのち、理事、常務理事、専務理事を歴任。一方、2006年から日本歯科医師会の理事、2011年から常務理事。この間、新潟県支基金審査委員、新潟県地方医療協議会委員のほか、2011年から2015年まで中央社会保険医療協議会委員、社会保障審議会医療保険部会委員。現在は、日本歯科医師会会長、新潟県歯科医師会顧問を務める。

続けるという危機的状態に直面していました。そこから、歯科界は一丸となって「超高齢社会の新しい役割と責任はなにか」について議論を重ねて、「超高齢社会では単に長く生きることを目指すのではなく、むしろ食べる、話す、笑うという生活の基本的な機能を人生の最後まで全うすることを目標とするべき」という方向性を得て、そこに歯科医療や口腔健康管理の大きく新しい役割を見いだそうとしています。

その理解を得るため、歯科界は「口腔機能管理により誤嚥性肺炎が激減する」、「全身の手術の前後で口腔機能管理を徹底すると、入院日数が少なくなる」といったデータを示し、最近では糖尿病、認知症と口腔の健康の関係についても発信してきました。これらのデータ等をもとに、昨年の骨太の方針にも「口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む」と明記されるなど、理解と期待が深まっているところです。この期

待に应运え、さらにオールデンタルで、健康寿命の延伸に向けて取り組んでいきたいと思っています。

歯科医療の広がり と地域包括ケアシステム

この昨年の骨太の方針への記載が典型ですが、歯科界からの発信により、歯科医療や口腔健康管理の重要性が広く知られるようになりました。地域の医療連携の中で、患者さんに長く寄り添っていくことが、本来のかかりつけ歯科医の姿であり「やりがいを感じる」という声が歯科医からも聞こえてきています。

また、「地域包括ケア」「地域医療計画」「地域医療介護総合確保」といった言葉が示すように、国の医療政策は地域重視、地域完結型になってきています。従って先ほどの「超高齢社会の新しい歯科医療の役割」を地域包括ケアシステムの中で具体的に実践することが、求められています。

今、診療報酬改定の中で日歯が示した「かかりつけ歯科医」の定義は、このような視点で、新しい歯科医師像を示し

ています。即ち「地区の歯科医師会との連携」、「在宅、病院、介護施設等での歯科医療提供」、「チーム医療、退院時カンファレンスなどへの積極的な参画」、「他職種との連携」等を謳っています。

ただし歯科医療機関の約8割は個人経営で体力の弱い診療所であり、在宅診療を行うには外来診療を休診する必要があります。また地域に歯科のある病院が少なく、連携が進まないなど、まだまだ多くの課題を抱えています。

課題は整理されていますので、今後はそれらを克服するために、さまざまな取り組みを行っていききたいと思います。例えば、地域の歯科医師会の機能強化による病診連携の推進や、歯科診療所同士が支え合って在宅診療を行う仕組みをつくるなど、すでに多くの成功事例がありますので、それらを紹介することも必要だと思います。

歯科医療を国民へ周知し、 国際的視野で業界を活性化

2年前に私が会長に就任した時に、日歯として取り組む「28課題」を掲げ、タスクチームを立ち上げました。その中に「女性歯科医師活躍検討チーム」があります。女性歯科医師は出産や育児、介護などで一旦離職すると復職が難しいという現状があります。そこで、外部有識者も交えて、女性歯科医師の多様な働き方の支援に関する議論を行っています。例えば、ホームページ上に就職支援サイトを設置したり、プランクの後の復職に必要な研修の充実や、復職した後にフレキシブルに働ける労働環境などを検討しています。

また、歯科技工士や歯科衛生士などの不足に対しては、毎年、文部科学省や厚生労働省へ職業告知の推進、学生への奨学金や養成校への補助金の充実を要望しています。特に高校の進路担当教師が、歯科技工士や歯科衛生士の仕事を理解していないという問題があります。本会のホームページで、歯科衛生士、歯科技工士の仕事を紹介する動画を配信していますし、また8020運動の30周年に当たる今年、記念事業

として、歯科衛生士、歯科技工士の仕事を含む歯科医療のことを国民に広く身近に知っていただく目的で映画の製作にも取り組んでいます。『笑顔の向こうに』というタイトルで来年の2月か3月の公開を予定しています。

本会の国際活動については、「国際戦略検討ボード」というタスクチームを立ち上げています。本会は1969年からFDI(世界歯科連盟)に加盟し、毎年大会には代表団を派遣しています。しかし、活動がこれまで会員にはよく見えていませんでした。その理由は、歯科医個人には直接関係がないことや、専門的な立場での議論が多いこと、さらには日歯としては国内の政策で手一杯で、国際戦略の議論を深めるまでには至っていません。

国際戦略検討ボードでは、FDI対応のほか、国のアジア健康構想を視野に入れつつ、アジア諸国との連携を議論しています。現在、ミャンマーとベトナムに対しては書籍の提供という形で協議を進めており、韓国とは5月に包括的な協力関係構築に向けて覚書を締結する予定です。

一昨年、ポーランド、昨年スペインと自分自身がFDIに参画してみて、国際社会の日本に対する期待が想像以上に大きいことを実感しています。また、国際社会の一員として日本の責任を議論することが、国内政策をより磨き上げることにつながると認識しています。

国際対応を含め、チャレンジングな課題に取り組み、歯科界全体を活性化し、元気が出る、誇りをもって仕事のできる歯科界にしていきたいと考えています。

企業トップに聞く

より優れた治療結果のために 治療の進化を支えるデンタルソリューション

2016年2月、デンツプライ・インターナショナルとシロナデンタルシステムズの対等合併が完了。現在、世界中で毎日、60万人の歯科医療従事者が、600万人の患者さんに製品を使用しているという、世界最大級の歯科用材料・機器メーカーとなったデンツプライシロナ株式会社。そこで今回は、2017年1月から日本法人の新社長に就任した北本優子氏に、アメリカ本社も注目する日本市場で、どのような手腕を発揮するのか伺いました。



北本 優子

デンツプライシロナ株式会社
代表取締役社長

(きたもと・ゆうこ) 大学卒業後、アメリカ系企業の営業業務を経て、英国メジャー企業BPジャパンの戦略・事業計画に従事。2005年から、BP本社勤務となりロンドンに駐在し事業統合を担当。帰国後の2009年、シロナデンタルシステムズ株式会社の最高執行責任者に就任。2013年、同社代表取締役社長。シロナデンタルシステムズ株式会社とデンツプライ三金株式会社の合併に伴い、2017年にデンツプライシロナ株式会社の代表取締役社長に就任し、現在に至る。

モノづくりのドイツと 技術のアメリカが融合

Dental Tribune Japan: デンタル・ソリューション・カンパニーというタグラインを掲げていますが、どのような会社でしょうか。

北本社長: 当社は歯科用材料で有名なデンツプライと、歯科用機器で有名なシロナデンタルシステムズが合併したことにより、「予防」から「保存」「矯正」「部分補綴」「欠損補綴」まで、すべてのステージでの機器と材料をそろえることができました。

しかも物だけでなく、アメリカは昔から消耗品をより良いものに改良していく技術があり、ドイツは精密機械に代表されるようにモノづくりとしての歴

史があり、こうした多様な文化と技術が融合した、非常に刺激に富んだ環境にある会社です。

合併により、アメリカやヨーロッパのみならず、中近東やアジアまでの世界戦略を展開しています。我々のCEOであるドナルド・ケーシーは、成長していく市場には大きな投資をするという考えです。当然アジア、中でも日本に対する投資も大きく、我々としては大変楽しみながら成長戦略を展開できると期待しています。

今、特にフォーカスされている分野は何でしょうか。

特にフォーカスしている分野は「予防」です。すべての患者さん、国民にとって、歯科予

防は非常に重要なテーマです。高齢社会においては、まだまだ予防に力を入れていかなければならないでしょう。

デジタル・デンティストリーとして、すべての分野にデジタル技術を駆使し、最良のソリューションを提供してきましたが、我々が合併していなければ、予防の分野までは網羅できませんでした。今、予防製品にもデジタル技術を応用し、特に口腔内の健康増進を担う予防療法に欠かせない超音波スケーラーも、Cavitrion Touch (カコミ参照) などの改良された機能性の高いものを提供しています。

一方で、高度な技が求められる修復の方法には、アナログの製品もそろっています。これらのすべての製品がそろったことで、我々のミッションである「歯科医療従事者により良い、より安全で、より早いデンタルケアを提供する」ことができるという確信があります。

次世代を担う歯科医師の 育成をサポートする

御社は製品開発だけでなく、セミナーや講演会など、教育にも力を入れているそうですが、具体的な活動を教えてください。

日本の歯科の先生方は、とてもよく勉強されているので、日本の先生方に我々の製品を選んでもらえることに誇りをもっています。次の世代を担う

歯科医師の育成をサポートする目的で、日本歯科医師会の「歯学教育支援プログラム」を23年前から後援しています。

このプログラムは、昨年は歯科大学・歯学部28校が参加し、学生が英語でポスター発表を行います。1位の受賞者はアメリカへ派遣し、国際歯科研究学会米国部会が主催する学術大会で発表します。

また、ドイツの本社では「デンタル・アカデミー」を開いており、KOL (キーオピニオンリーダー) の先生方がライブでインプラントの治療を見せたり、CAD/CAM の使い方を説明したりしています。今後はそれを日本でも開催し、さらにグローバルに発信できるような内容を計画中です。

他の診療領域との連携、例えば医科歯科連携などでの展開 はいかがでしょうか。

高齢社会を迎え、口腔内の健康と全身疾患の関係が、非常に注目されてきています。我々も歯科領域にとどまらず、医科との連携がとても重要だと認識しています。例えば、デンツプライシロナの歯科用CTによる画像診断を耳鼻咽喉科領域と連携することで、現在日本に400万人もいるといわれている睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の患者さんの診断にも応用が可能になります。

また、メタルフリーの実現は、皮膚疾患の予防につながります。メタルフリーが一部保険適用になったことで、我々も質を落とすことなく、保険でも自費に劣らないソリューションを提供することが可能になりました。

社員と一緒に成長し、 成功への舵取りを行う

経営者として心がけていることは何ですか。

1点目は「歯科医療従事者により良い、より安全で、より早いデンタルケアを提供する」というミッションを遂行することです。

2点目は“人財”です。ソリューションという製品と思われがちですが、どんなに製品が良くても、その製品に愛着がなければ売ることはできません。そのために経営者として「“人財”をどうするか」が最も大切で、どこに向かっていくのかの舵取りと、それが「あなた」にとってどういう意味があるのかを、しっかりと示せることだと思います。

当社には年齢も経験も変化に富んだ600名以上の社員が在籍しており、いろいろな見方、意見がありますが、経営者としての責務は、さまざまな意見や見方のバランスをとり、成功への舵取りをしていくことだと考えています。

もう一つ、日本では以前から、エンドユーザーとしての歯科医師と特約店との間に、強い関係があります。これからお互いに良い結果が出せるようパートナーシップをより強化していきたいと思います。

「女性経営者として」ということをよく聞かれますが、私は男性経営者と変わりはないと思っています。ただあえていうなら、例えば、女性の体力は男性よりもないと思いますが、そうした弱みを女性は自ら把握し受け入れる姿勢をもって、ということではないでしょうか。だからこそおごることなく、今恵まれている人財や製品とともに、日本の歯科医療従事者のお役に立てればという思いで、これからも邁進していきたいですね。

インタビューへのご協力、ありがとうございました。

Cavitrion Touch (キャビトロン タッチ) とは？

マグネット式超音波スケーラーのキャビトロンシリーズの最新機器です。超音波スケーラーの発振方式には、マグネット式とピエゾ式の2種類があります。キャビトロン タッチはマグネット式を採用したもので、チップの先端が楕円状に振動することから、チップのすべての面を使用することが可能で、歯面を傷つけにくいという特徴があります。加えて静かで、洗浄

力に優れています。

キャビトロン タッチは、ワンタッチで操作可能で、パワーが目視でき、グリップ部分が360度回転するためポジショニングを変えなくてもすむほか、軽量のコードは手首への負担が少なく、ワイヤレスフットペダルで踏み続けなくても操作できるなど、さまざまな最新技術が盛り込まれています。



Cavitrion Touch

挨拶（要旨）

DSJ 設立記念講演会開催

3月17日（土）・18日（日）、スタディグループ「DENTAL SQUARE JAPAN（DSJ）」の設立記念講演会がレソラホール（福岡市）にて開催された。本研修会は、つきやま歯科医院専門医療センター長の築山鉄平氏が主宰を務め、「自立して診査診断し、自律して治療を進めることができる歯科医師、歯科衛生士の育成」を目指している。講演会は、インプラント、補綴、ペリオ、エンドの各分野のスペシャリストがスピーカーを務め、立ち見が出るほどの大盛況で、数多くの歯科医師と協賛企業が集まり、築山氏の挨拶で幕を開けた。

自立と自律

本研修会設立の経緯は、高品質な歯科医療を実践したいという思いが発端です。本研修会における教育目標はそのカリキュラムを修了、卒業する時点であるレベルに到達することが挙げられます。ただそれは完成形を意味するものではありません。あるときから先は自分自身で考え実行しなければならず、そのための自立した診査診断と自律した治療を実行していく素地を育むことが目的です。

そのために過去の先人たちが紡いできた知識を効率的に学び、新たな考え方や技術が出てきたときに論理的に自分で考えて、それが妥当かどうか

を判断できる力をDSJで身に付けてもらいたいと考えています。

早期診断と早期管理

治療とは、すでに問題が起きているから行います。私たちには、そもそも問題を起こさないようにするという大前提があり、それでも問題が起きた場合にはしっかりと対処しようという考え方があります。

問題を起こさないためには、早期診断・早期管理を踏まえた質の高い予防が必要になってきます。世界的にも多大な実績を残されている熊谷崇先生、イエテボリ大学カリオロジーの名誉教授ボー・クラッセ先生

たちが「メディカルトリートメントモデル（MTM）」を提唱しており、これは「早期発見・早期治療」ではなく、「早期診断・早期管理」を行うことに主眼を置いています。つまり発症前の歯周病、う蝕を未発症のままコントロール、予防するということです。予防には、起こり得る病気を未然に防ぐための病因論を学ぶことが必要で、その中心となる2大学問分野がカリオロジーとペリオドントロジーです。目に見えない健康や病気を患者さんにより分かりやすく伝えて、オーダーメイド的な医療を提供していくのがMTMの流れです。

治療は歯を削る、予防は削らないという風に対照的に捉



DSJ 設立記念講演会で挨拶する主宰の築山鉄平氏。スクリーンに映し出されているのはボードメンバー

えられていますが、この2つを両輪として回していかなければ患者さんの健康は実現できません。そのため、DSJで治療の哲学を伝える上で、予防の医療哲学を共有している人たちでなければ伝えられないと思いました。

口腔健康価値の革新へ

今後は、人間関係のネットワークを皆で構築していきたいと思っています。ただ、妥協的に数を集めるというわけで

はなく、理念をきちんと共感してくれる人たちと一緒に築き上げていきたいです。今は、補綴とペリオとインプラントとエンドの構成でやっていますが、将来的にはあらゆるジャンルリーダーが必要だと思っています。私たちが話して、育てて、そして納得してもらい、協働していく。そんなリーダーを育成して「日本国民の口腔健康価値の革新」を実現していきたいと思っています。

ついに登場！

第4世代の

史上最強

分割ポリリン酸ホワイトニング誕生！

最新ナノテクノロジー炭素配合・シリーズ最高のホワイトニング効果！

世界特許！分割ポリリン酸Naで「驚きの白さ」の新しいホワイトニングを体験してみませんか？

全国2000軒の

歯科医院が導入・

絶賛！

歯が痛くならず驚きの白さ！

世界初の再石灰化するホワイトニングシステム

歯質も強化！最新予防システム

歯が白くなるだけで一気に美人度UP！

（左写真）施術前

（右写真）施術後

プラチナ・炭素効果で自然なキラキラした歯に！

米スタンフォード大学

アーサー・コンバーク博士

（ノーベル賞取得）の

研究から誕生！

セミナープログラム

●13:00～15:00
世界特許、分割ポリリン酸Naの効果

●15:00～15:30
炭素を配合した新しいスーパーポリリンホワイトニングの効果

●15:30～16:30
ポリリンホワイトニング導入医院の患者増員効果・事例報告

●16:30～17:50
スーパーポリリンホワイトニング実技

※開場受付は12:30からになります

講師紹介

医療法人社団 光揚会
ラデントグループ
理事長
歯学博士 津田 忠政

（株）C&C Company
代表取締役
西尾 秀俊

DHデンタルクリニック
院長 小川 恵子

開催日程

※受講票は後日郵送します

●参加費：歯科医師：20,000円 歯科衛生士・助手：10,000円

●東京会場：東京八重洲ホール
（東京駅八重洲中央口徒歩3分）東京都中央区日本橋3-4-13
2018年／6月17日（日） 7月22日（日） 8月19日（日） 9月23日（日）
10月21日（日） 11月18日（日） 12月16日（日）

●大阪会場：新大阪丸ビル別館
2018年／6月24日（日） 7月15日（日） 9月2日（日） 11月23日（祝金）

●名古屋会場：TKPガーデンシティ PREMIUM名古屋新幹線口
2018年／8月9日（木） 10月25日（木）

●福岡会場：カンファレンスASC 2018年／11月3日（祝土）

●仙台会場：TKPガーデンシティ仙台 2018年／6月10日（日）

●札幌会場：TKP札幌駅カンファレンスセンター 2018年／9月17日（祝月）

●高松会場：高松センタービル 2018年／8月2日（木）

●那覇会場：TKPネストホテル那覇センター 2018年／12月6日（木）

分割ポリリン酸Naって？

分割ポリリン酸Naは、リン酸が数個から数千個直鎖状に重合してできている生体高分子物質で、線維芽細胞増殖因子（FGF）の機能増強作用があり、骨を含む歯周組織再生促進作用が認められている。とくに分割ポリリン酸Naは効率的なステインの除去効果や沈着防止効果を持つと同時に歯周病菌やむし歯原因菌・真菌類に対する抗菌作用も併せ持ち、口腔内環境を整える物質として注目されている。

スーパーポリリンホワイトニング実施症例

失活歯も！

テトラサイクリン歯も！

炭素でラジカル効果がさらにUP！

お申し込み先 FAX 043-224-7891

SUPERPORIRIN WHITENING

ご希望日 ●東京会場 2018年 □6月17日（日） □7月22日（日） □8月19日（日） □9月23日（日） □10月21日（日） □11月18日（日） □12月16日（日） ●大阪会場 2018年 □6月24日（日） □7月15日（日） □9月2日（日） □11月23日（祝金） ●名古屋会場 2018年 □8月9日（木） □10月25日（木） ●福岡会場 2018年 □11月3日（祝土） ●仙台会場 2018年 □6月10日（日） ●札幌会場 2018年 □9月17日（祝月） ●高松会場 2018年 □8月2日（木） ●那覇会場 2018年 □12月6日（木）

歯科医院名 又は 勤務先名		TEL（携帯可・ご連絡が取れる番号）
お名前	役職	FAX
ご住所 〒		メールアドレス

主催：株式会社 C&C Company ☎043-224-3231 <http://just-1.net> Email:info@ndc240jp 千葉市中央区本町 3-3-3

第36回日本顎咬合学会学術大会・総会 特集

オピニオンリーダーに聞く

歯科臨床医のための最大学会、学術大会・総会を開催

会員数約9,000名弱と、歯科臨床系の学会としては日本最大規模の「日本顎咬合学会」は、毎年、学術大会・総会を開催しています。第36回を迎える今年も、「真・顎咬合学 輝け日本の歯科臨床!! ～臨床力の向上による歯科界の活性化～」と題し、6月9日、10日に、東京国際フォーラムで開催されます。そこで学会理事長であり、大会長である上田秀朗先生に、同会の活動内容や理事長としての思い、さらに今年の学術大会の見どころ、聴きどころについてお聞きしました。



上田 秀朗

うえだ 歯科医院 院長
特定非営利活動法人日本顎咬合学会 理事長

(うえだ・ひであき) 1983年、福岡歯科大学卒業。1987年、北九州市小倉北区でうえだ歯科医院開院。2010年、福岡歯科大学臨床教授就任。2014年、USC (南カリフォルニア大学歯学部) 客員教授。日本口腔インプラント学会認定専門医・指導医。2017年7月から、日本顎咬合学会理事長を務める。咬合再構成、インプラントの分野における第一人者。北九州歯学研究会をはじめ、多数のスタディグループに在籍し、多数の著書や論文発表があるほか、セミナーでも数多くの講演を行っている。

歯科臨床医のための
臨床に特化した学会

日本顎咬合学会は、咬合についての統合的な観点から、臨床の場で患者さんのニーズに応えられるようにと、1979年に故・保母須弥也先生が「国際ナソロジー学会アジア部会」として設立した後、1982年に「日本顎咬合学会」として発展的に分離独立。2005年にはNPO法人化し、2017年7月から私が第14代理事長に就任しました。

現在、会員数は約9,000名弱と、歯科臨床系の学会としても、歯科学会としても、日本最大規模の学会です。歯科医師のほかにも歯科技工士が約550名、歯科衛生士も約900名が会員となり、歯科専門職として日常の臨床や啓発活動にと、活発に活動しています。

1993年には、顎咬合学とその関連する領域に豊富な知識と経験を有し、日常の臨床でそれを実践している会員歯科医師に認定医の資格を与える「認定医資格制度」を開始しました。

また現在、歯科口腔医療には質の高いチーム医療が求められ、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士が三位一体となって、同じレベルの知識を共有し、予防、治療、管理を行うことが大切です。そうした考えから、認定医資格制度に続き、認定歯科技工士、認定歯科

衛生士制度を立ち上げました。

垣根を超え、自由に学び、
臨床レベルの向上へ

当学会の目標は、「歯科医学・医療の向上ならびに国民の健康と福祉に寄与する」ことです。そのためには、臨床における歯科治療体系の確立が最重要課題です。当学会では、あらゆる分野のベーシックな治療からアドバンスな治療について、歯科界の中の垣根を超え、さらに大学や医科との連携を図りつつ、自由に勉強できる多様なスタディグループが存在しています。これらグループ同士の交流が、活発に行われているところが大きな特徴となっています。

こうした勉強や活動の集大成が、年1回開催される学術大会・総会です。

また、当学会では会の事業を5カ年計画として実践しています。2012年に渡辺隆史元理事長が「新・顎咬合学」を提唱し、上濱正前理事長で結実しました。そしてこの5年間で、当学会の活動はさまざまなメディアに取り上げられ、歯科界のけん引役となり、「生涯にわたって、よく噛んで食べることが健康長寿の基本である」ことを世間に広く発信してきました。その結果、国民の歯に対する知識と理解は確実に深まっ

たと思います。

そこで昨年からの5カ年計画では、これまでの活動を継承しつつも、それをさらに発展させるものとして、「真・顎咬合学」を制定。これは、全会員に顎咬合学の真髄を理解してもらい、それを臨床で応用することで、国民に顎咬合学会の「真心」を伝え、学会の「真髄」を評価してもらえるように努めてほしいという思いから名付けました。

歯科医の基本は、歯周治療、歯内治療、補綴治療です。こうした基本治療ができて初めて咬合ができ、患者さんがいつまでもよく噛むことができ、よく食べることができます。なおかつ快適できれいな歯が長持ちすることが、私たち臨床医の務めだと思います。そのためには、こうした基本治療に力を入れて、臨床力の底力を上げていく必要があります。

また、高齢化社会を背景に、口の中の(オーラル)の機能が低下することで体の衰え(フレイル)につながっていく「オーラルフレイル」をはじめとした、口腔機能と全身との関わりが注目されています。そうした国民の要望と期待に応えるために、会員による「国民の健康な咬合」の育成、維持、再建、管理の実践が不可欠です。私はこれに応えられる会員歯科医師を育成していくことで、社会に貢献したいと考えています。

そして、学会本部と支部との連携充実を図り、「真・顎咬合学」で国民の「健口長寿」と歯科界の発展を目指したいと思います。

基本から先進医療まで
歯科技工士、歯科衛生士も対象に

特に若い世代には、次世代の歯科界のけん引役としての役割に期待しています。そのためにも当学会のメインの活動であり、年に1回の歯科臨床医の祭典である学術大会・総会を大いに利用してほしいと思い、ここで第36回大会について紹介いたします。

何よりも、さまざまなジャンルの先生を講師に招いているため、歯内治療や歯周治療の基本治療から審美歯科、咬合再構成、インプラントの合併症におけるトラブルシューティング、セラミックワークやCAD/CAM臨床の最前線まで、幅広く学ぶことができます。

特別講演では、南カリフォルニア大

学(USC) 歯学部学部長・教授のAvishai Sadan先生をお呼びし、「接着を用いた複合的な修復治療の実際」について、ご自身のデータに基づいて、審美的な治療法を選択するための系統的で科学的な手法を紹介していただきます。

一般の人も聴講できる公開フォーラムでは、今、社会的にも関心の深い「歯周病と全身疾患」について、糖尿病専門医の西田互先生には「糖尿病予防と長生きの秘訣は歯周病治療にあり!」と題して、日本歯科大学の関野愉先生には「歯周病と全身疾患との関係」について、日本大学歯学部の伊藤公一先生には「歯周病と糖尿病との関連性」について講演していただきます。さらに歯科衛生士の立場から、中澤正絵さんには「歯科衛生士が取り組む全身管理」についてお話しいたします。

オーラルフレイルのセッションでは、その概念の提唱者である東京大学高齢社会総合研究機構の飯島勝矢先生に、「オーラルフレイル—我々医療者は国民に何を伝えるべきなのか—」と題して講演していただきます。

このほかにも、卒後5年程度の歯科医師の臨床力アップを目的とした「歯内療法の基本」「歯周外科」「矯正治療」などの基礎シリーズとしてのテーブルクリニックから、アドバンスシリーズまで網羅したテーブルクリニックを行います。そこでは実際に講師の先生方の手技を見ることができます。他のスタディグループがどのようなことを行っているのか目の当たりにすることで、とてもよい刺激になるのではないのでしょうか。さらに会員のポスター発表など、数多く開催されます。

今年は依頼講演が147、会員発表が354で、合計501という、従前の大会の中でも最多数の演題が2日間にわたって開催されます。最初に興味のあるところをプログラムでチェックしておく、無駄なく回ることができると思います。

また当学会は、歯科医師と歯科技工士、歯科衛生士は三位一体と考えており、本大会でも歯科技工士や歯科衛生士のための教育セミナーが開かれます。私としては歯科技工士にはセラミックワークやCAD/CAMなどを、歯科衛生士には公開フォーラムやインプラント周囲炎への対応を、ぜひ聴講してほしいと思います。

本大会では、必ず興味のあるテーマに出会い、憧れの先生の講演が聴け、垣根を超えた情報交換や交流ができます。クリニックのスタッフ全員で参加できる幅広い内容になっていると思いますので、ぜひ皆さんで参加してください。

第36回日本顎咬合学会学術大会・総会 出展企業

Straumann® CARES®
Integrated Digital Solutions

※ストローマン社のCAD/CAMを用いた歯科加工です
ストローマン 3Dプリンター トリプルズ 一般医療機器 1381X10163000322 ストローマン ミリングマシーン 一般医療機器 1381X10163000314
TRIOS3 オーラルスキャナ 管理医療機器 22800BZ100042000 CARES スキャナー D7 Plus 一般医療機器 1381X10163000207

ストローマン・ジャパン株式会社
〒108-0014 東京都港区芝5-36-7 三田ベルジュビル 6階



決めるぞ!!
進級・国試合格!
東京デンタルスクールが
全力で応援!

東京デンタルスクール

Tokyo Dental School



平日・土日・祝日
365日開校

歯学部受験、歯学部1~6年生、国試浪人生の定期試験、進級、
歯科医師国家試験対策マンツーマン個別指導です。



◆ 歯科ナビ ◆

◆ 精鋭問題集 ◆



定価 9,800円+税
歯学生1~6年生の
定期試験、CBT、
歯科医師国家試験
対策の全教科
がこの1冊に!



定価 6,500円+税
全教科網羅
した問題集!

全国書店、Amazonで
好評発売中!!



◆ 日本大学松戸歯学部 卒業 学部長賞受賞
◆ 日本アンチエイジング歯科学会 理事
◆ 一般財団法人 日本歯学教育振興財団 代表理事
◆ 一般社団法人 医歯薬獣医総合教育機構 理事長
代表 網田 優一郎
(歯科医師)
東京デンタルスクール
お申し込みフォーム

☎03-6802-5260

秋葉原教室/JR秋葉原駅 徒歩2分
101-0023 東京都千代田区神田松永町7 ヤマリビル3階
恵比寿教室/JR恵比寿駅 徒歩2分
150-0011 東京都渋谷区東3-16-10 三浦ビル3階

選ばれ続ける歯科医院になるための
歯科医院と患者さまをつなぐサービス

歯科意識向上に役立ち、なにより医院の安定に繋げることができる。
[導入医院の声より]

サンプル動画はこちら

TRINION www.trinion.jp

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-16-6 ストック蔵前M&K 4F

インフォームド・コンセントから
インフォームド・チョイスへ

信頼度UP↑

定着率UP↑

自費率UP↑

患者さんにしっかりと説明をして選択していただける環境を
コムネットはサポートしています。

株式会社コムネット

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-11-4 姫路ビル2F

日本顎咬合学会

展示ブース No.1-12

お気軽にお立ち寄りください。

TEL:03-3350-0648

資料請求は
Webから

コムネット 歯科

検索



http://www.comnt.co.jp/

Laser-Lok® Microchannels



米国の BioHorizons 社のインプラントは、カラー部に付与されたミクロン単位のマイクロチャネルを持つ Laser-Lok® により、軟硬組織の付着を促します。また、生物学的封鎖を創出するコンカルコネクション、NASAでも採用されているアバットメントスクリューの緩みを防止する Spiralock® を取り入れています。第36回日本顎咬合学会学術大会ではブース番号 3-5 で皆様をお待ちしております。9日の15:10~16:20には、ホールE・テーブル7で、**工藤淳一先生**のテーブルクリニック「Laser-Lok® サーフェスの特徴を活かした審美エリアに対するアプローチ」も行います。奮ってご参加ください。

株式会社カイマンデンタル

〒102-0082 東京都千代田区一番町8番地15 一番町MYビル2F
TEL: 03-3238-7560 FAX: 03-3238-7561 e-mail: info@caimandental.com

炎症で繋がる歯周病と糖尿病



しています。ぜひ視聴いただき日常診療にお役立て
ください。

歯周病は様々な全身疾患と関連性があり、特に糖尿病とは密接な相互関係があることから、糖尿病の第6の合併症と捉えられています。歯周病の治療や予防は、口全体の「健口」維持と身体全体の「健康」維持にとっても大切なことです。

弊社の医療従事者向け Web サイトでは、一人の患者さんを医科と歯科が口と全身を通じて支え合う重要性を西田互先生が解説した動画を公開



昭和薬品化工株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目17番11号
TEL: 0120-648-914 受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

若年患者にバイオアクティブ修復材料の恩恵あり

by Dental Tribune International

ボストン（米国）：Pulpdent社が開発したバイオアクティブ修復材料ACTIVA BioACTIVE-RESTORATIVEの使用結果が、最近のピア・レビュー（査読）付き白書で公表された。この論文の中では、同製剤の使用を推奨するとともに、46カ月間にわたって2,703例の小児および10代への充填による修復治療を臨床観察した結果の要約が報告された。

同白書は、乳歯および永久歯列に対する修復材料としてのACTIVA BioACTIVE-RESTORATIVEの使用プロトコルを概説し、著者の経験に基づく最善の方法を推奨している。このガイドラインでは、年齢8

～17歳の12例で撮影された処置前後の臨床画像が4ページにわたって掲載された。これらの画像は、破折した前歯の築盛から、大白歯のう蝕充填まで、ACTIVA BioACTIVE-RESTORATIVEに幅広い適用が

あることを示している。

4年近く経過し、2,703例から得られたACTIVA BioACTIVE-RESTORATIVEによる修復の成績は有望なものであり、患者や家族から術後過敏症の報告もない。さらに著者の観察の結果、修復箇所および歯の表面に着色の恐れがある一部の複合材料（コンポジットレジン）とは異なり、この充填方法では目立った辺縁着色がなかった。

著者は、ACTIVA BioACTIVE-RESTORATIVEが、経時的な腐食や摩耗を伴うレジン添加型グラスアイオノマーセメントの欠点を克服することを突き止めた。著者の臨床経験

と研究の両面で、ACTIVA BioACTIVE-RESTORATIVEには耐破折性と耐摩耗性があることが示されており、この材料を用いた修復はチッピングや破折の可能性が低いことを意味する。

同白書は「ACTIVA™ BioACTIVE-RESTORATIVE™ material in children and teens: Examples and 46-month observations」

のタイトルでAEGIS Dental Networkを介し、Inside Dentistry誌上にオンラインで公表されている。米国ワシントン大学歯学部客員教授であるTheodore Croll博士と、米国アラバマ大学歯学部の准教授で生体材料室長であるNathaniel Lawson博士が作成した。

出典：News International 2018/3/16



Pulpdent社は70年以上にわたって製品革新、臨床教育、患者中心のケアに取り組んできた（写真：Monkey Business Images / Shutterstock社）

骨誘導再生における膜露出は治療結果に影響するのか？

by Dental Tribune International

リヤド（サウジアラビア）：インプラントを選択する患者が増えるにつれて、骨量不足などでインプラントが困難な症例も増えている。このため、骨誘導再生法などの新たな手術手技が開発され、チタンメッシュが術式の中で使用されてきた。だが、チタンメッシュの使用は一部の患者に露出などの合併症をもたらすことも分かっている。

この研究では、再生過程の継続中に露出させたチタンメッシュを除去し、メッシュ下

に造成された骨をそのままにしておくと、造成術の効果が向上し、成功につながることが研究



MTA マテリアル

angelus®

歯内治療

MTA フィラペックス

MTA根管充填用シーラー

- ・生体親和性：炎症を起こすことなく組織を治癒します。
- ・放射線不透過性：3mmのアルミスケールより77%高い造影度
- ・硬化時間：2時間10分
- ・流量：27.66 mm
- ・膜厚：39.6 μm
- ・硬化膨張：0.088%
- ・溶解度：0.1%



認証番号：226ACBZX00043000



MTA Repair HP

MTA高可塑性修復セメント

- ・新方式：水で練和した後の取扱いおよび窩洞への填入が容易です。
- ・新たに開発された放射線不透過性のタングステン酸 (CaWO₄)：により歯根やクラウンへの着色原因になりません。
- ・初期硬化時間は15分：1回の来院で治療が完了します。
- ・低い溶解性：長期の使用が可能で、組織の回復も速まります。
- ・硬化膨張：細菌や唾液を根管に侵入させない、高い密封性が特徴です。



認証番号：229AKBZX00006000

New product

YOSHIDA

株式会社ヨシダ (YOSHIDA DENTAL TRADE DISTR. CO., LTD.)
電話：03-3845-2931 - webadmin@yoshida-dental.co.jp
www.yoshida-dental.co.jp

www.angelus.ind.br

者らによって示された。

米国ロマリンド大学とサウジアラビアのキング・サウード大学、およびイマーム・アブドゥルラハマン・ビン・ファイサル大学の共同で、研究者らは、2015年から2017年までに27～50歳の患者4名に対して、チタンメッシュを用いた治療を行った。全患者がすでに2回の骨造成術を受けて失敗していた。

4例すべてにおいて、チタンメッシュを骨移植に採り入れた手術手技は同じであったが、各患者が受けたチタンメッシュを被覆する膜の種類は異なっていた。さらに、各患者には術後1～6週間までの期間に、異なる割合で、メッシュの露出を人為的に行った。露出させたメッシュは、露出後4～10週間で除去し、残りのチタンメッシュも挿入から約6カ月後、かつ歯の移植の1～2カ月前に除去した。

研究者らによると、4例全例において露出させたチタンメッシュを除去し、メッシュ下に造成された骨をそのままにして



最新の研究で、露出させたチタンメッシュを除去し、メッシュ下に造成された骨をそのままにしておくと、骨誘導再生法の有効性が高まり、成功することが分かった(写真:madeinitally4k/Shutterstock社)

おくと、骨量が歯科インプラントに適したレベルに達することが確認された。露出させたメッシュを除去するもう1つの利点は、インプラントに向けてより衛生的な空間ができることにあるが、一方で、メッシュを露出させた部位のケアが患者にとって困難で不快感をもたらし、再生部位の完全性を損なわせていることも報告された。「露出部分の除去が骨の結合の最終的な造成骨量に対して

臨床的に悪影響を及ぼすことは一見したところなく、患者自身が衛生状態を保つことがより簡単になる」と、筆頭著者であるロマリンド大学歯学部准教授のAladdin J. al-Ardah博士は述べた。歯科インプラント手術に適した骨再生と衛生維持が得られるという点で、この手技は成功といえるものの、研究者らはこの手技が日常的な歯科診療で採用可能となるまでには、さ

らなる分析が必要なことも認識している。この研究は「Managing titanium mesh exposure with partial removal of the exposed site: A case series study」のタイトルで、Journal of Oral Implantology誌2017年12月号に公表されている。

出典: News International 2018/3/20

DENTAL TRIBUNE 日本版
2018 Vol.2 No.2

発行人.....平川大 / 平川裕司
小川嘉一

編集長.....大畑めぐみ

編集責任者.....斉藤淳

デザイナー.....鈴木美里

スタッフ.....藤田元久 / 川端啓
藤田記子 / 田村裕未

監修.....石井貴久

dti 日本代表.....寺岡善満

海外記事監修.....金子智之

発行日 2018年6月9日発行

編集発行
株式会社メディカルネット
プランネットワークス株式会社
〒151-0072
東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14 宝ビル3階

Publisher/President/Chief Executive Officer
Torsten R. Oemus

Chief Financial Officer
Dan Wunderlich

Director Content Creation
Claudia Salwiczek-Majonek

Senior Editor
Yvonne Bachmann

Clinical Editors
Nathalie Schüller
Magda Wojtkiewicz

Editor & Social Media Manager
Monique Mehler

Editors
Kasper Musseche
Brendan Day

Junior Editors
Franziska Beier
Luke Gribble

Copy Editors
Ann-Katrin Paulick
Sabrina Raaff

Junior Business Development & Marketing
Alyson Buchenau

Dental Tribune International GmbH
Holbeinstr. 29, 04229 Leipzig, Germany
Tel.: +49 341 48 474 302 | Fax: +49 341 48 474 173
info@dental-tribune.com | www.dental-tribune.com

内容に関するお問い合わせ
定期購読のお申込み
info@blanc-net.co.jp

※本誌記事の無断転載・複製を固く禁じます。

©2018, Dental Tribune International GmbH.
All rights reserved. Dental Tribune International makes every effort to report clinical information and manufacturer's product news accurately, but cannot assume responsibility for the validity of product claims, or for typographical errors. The publishers also do not assume responsibility for product names or claims, or statements made by advertisers. Opinions expressed by authors are their own and may not reflect those of Dental Tribune International.



THE 10TH WORLD IMPLANT ORTHODONTIC CONFERENCE &
13TH INDONESIAN ASSOCIATION OF ORTHODONTISTS ANNUAL MEETING

VERSATILE APPLICATIONS OF TADS: THE EVOLUTION AND FUTURE DEVELOPMENTS

6-8 September 2018 | BNDCC, Bali - Indonesia

SPEAKERS

PROF. RAVINDRA NANDA | PROF. BIRTE MELSEN | PROF. WON MOON | PROF. PETER NGAN | PROF. HEE MOON KYUNG
PROF. YOUNG-CHEL PARK | PROF. KENJI FUSHIMA | PROF. GIOLIANO MAINO | PROF. MITHRAN GOONEWARDENE
PROF. M. ALI DARENDELILER | DR. ERIC JEIN-WEIN LIOU | PROF. BENEDICT WILMES | DR. SABRINA HUANG
PROF. OM P KHARBANDA | PROF. KEE JOON LEE | DR. JUNJI SUGAWARA | DR. FLAVIO URIBE & MANY MORE

REGISTRATION FEE

NORMAL : 16 MAY - 20 AUG 2018

ON SITE : 21 AUG - ONWARDS

PRE - CONFERENCE

WEDNESDAY, 5 SEPTEMBER 2018 (9 AM - 5 PM)

Pre- Conference participant should be registered as a participant in the WIOC Main Conference

	MAIN CONFERENCE		PROF. NANDA & DR. URIBE	PROF. BIRTE MELSEN & TEAM	DR. JOHN LIN & TEAM	DR. SRINIVASAN
	NORMAL	ON SITE				
International Orthodontist	USD 700	USD 800	USD 100	USD 100	USD 100	USD 150
International Orthodontic Resident	USD 600	USD 700	USD 80	USD 80	USD 80	USD 125

Additional
Accompanying Person USD 300
Gala Dinner Ticket USD 100

For registration and information, please contact:
Dr. Fahrul (+62 81513009039) or registration@wioc2018.com

For online registration and more information kindly visit our website :
www.wioc2018.com



SECRETARIAT

INDONESIAN ASSOCIATION OF ORTHODONTISTS

Department of Orthodontics, Faculty of Dentistry, Universitas Indonesia
Jalan Salemba Raya No.4, Jakarta 10430, Phone : +62 213156404
Email : secretariat@wioc2018.com
Contact Person : Dr. Agnes Sukandar (+62 811890329)

WWW.WIOC2018.COM

